

消防署から電話です  
「消防署から電話です  
電話を取った職員が安全衛生部署に繋ぎます。  
重篤災害の一報が入つた瞬間です。被災場所は？  
灾害発生状況は？ 被災者の容体は？ 搬送先は？ 消防署から一通りの確認を行つた後、すぐさま署長まで報告があが



## 死亡災害の根絶



ります。「被災者は心肺停止状態とのことです」速やかに現場調査の体制が整えられ、災害発生現場へ向かいいます。こうして監督署の災害調査が始まります。これまでに幾度も経験しましたが、重篤災害の連絡が入つたときはいつも重たい気分になります。

私が最初に災害調査に出たのは入省して2週間ほど経つた頃でした。下水管の布設工事現場において、深さ約3メートル、幅約1メートルの掘削溝

内で、壁面の土砂崩壊を防ぐための土止め作業をしていたところ、溝の中で土止め部材を押さえていた作業員が、その部材の重さに耐えきれず、溝と部材に胸部を挟まれて死亡したものでした。通常は「矢板」と呼ばれる専用部材などを使うのです。が、このとき使用している

当時に比べると死亡災害はずいぶんと減少いたしました。とはいえ墜落や機械によるはさまれなど悲惨な事故は今も後を絶たない状況にあります。

転倒などによる休業災害を減らしていくことはもちろん重要なことです。が、死亡災害はやはり根絶させなければなりません。

これまでに調査した災

その約2週間後に災害調査で出掛けたのはセメント工場でした。工場内には原材料を攪拌する機械が設けられており、被災者は機械内に入つて羽根の取替作業を行つておりました。もちろん電源を切つて作業を行つていましたが、他の作業員が誤つて起動させてしまい、被災者は攪拌機械の中で羽根に巻き込まれて亡くなりました。調査に行つたとき、設備内が血まみれになつていたのを今まで忘れることができませんでした。

ナレという言葉には、「慣れ」「馴れ」「狎れ」などの漢字があります。慣れは物事に習熟すること、馴れはなつくこと、狎れは親しみすぎて礼を欠くことを意味します。作業に慣れることが当然必要なことですが、馴れや狎れなど、安全をおざなりにする気持ちが出ないよう気をつけたいものです。

リスクアセスメントによるロジカル（論理的）な安全衛生活動とともに、社員ひとり一人が安全を最優先に考え、当たり前のようにルールを守る企業風土、いわゆる「企业文化」を多くの企業がしつかりと育てていつています。ただし、死亡災害が根絶されることを強く願つております。

イラスト・木村武司